

片鉄口マン街道サイクリング道

片上の街から吉ヶ原までのサイクリング道全長約36km

片上鉄道（かたかみてつどう）は岡山県の備前市から、同県の柵原（やなはら）町までを南北に結んでいた鉱山鉄道で、柵原鉱山で産出される硫化鉄鉱を、片上港まで輸送することを主な目的とし、沿線住民の通勤・通学の足としても重要な役割を果たしてきましたが、鉱石輸送廃止後、路線廃止への一路をたどり、1991年6月に72年間にわたる鉄道の歴史に幕を下ろしました。

1998年11月15日には、1991年に閉山となった柵原鉱山の歴史を学ぶことができる資料館「柵原ふれあい鉱山公園」が吉が原駅跡に完成しオープンされた。この資料館では東洋一の硫化鉄鉱山として栄えてきた柵原鉱山の鉱山町を再現したコーナーがあり、実物大のセットの中に商店や鉱山住宅が建ち並び、昭和30年ごろにタイムスリップした気分になれます。

2003年11月24日には、線路跡の舗装や駅舎の修復などの整備が進められていたサイクリング道が「片鉄口マン街道」として開通しました。

このサイクリング道は、鉄道跡を整備されているので、起伏が緩やかで初心者でも楽に走る事が出来ます。

全体地図



拡大

スタート（片上）



拡大

「山旅倶楽部」
(数値地図50mメッシュ標高+数値地図画像25000)
「カシミール」を使用

地名 距離

清水トンネル	3.5km (3.5km)
和気駅	5.6km (9.1km)
天瀬	5.9km (15km)
矢田	4.0km (19km)
苦木	4.0km (23km)
周匝橋	8.0km (31km)
吉ヶ原	5.0km (36km)

コース状況

片上の街からサイクリング道への入口には看板も何もないので分かりにくいですが、グリーンにペイントされた道を北へ向かう。



なだらかな坂を登っていくと、左側にサイクリングターミナルがあらわれる。

また、要所要所ではこの看板が道案内をしています。



そこからもう少し登ると最初のピーク、清水トンネルに着く。

ここまでの坂が、このサイクリング道では一番長い登り坂です。



下っていくと「清水駅」。
土盛りプラットフォームだけが残っている。



山陽自動車道と和気（わけ）インター近くで山陽自動車道の下をくぐり少し行くとJR山陽本線と和気駅に出る。



JRの線路を立体交差で越えて和気の町を抜けると右手に和気交通公園と鶴飼谷温泉が見えてくる。ここには広い無料駐車場があります。



田園風景の中を走っていくと吉井川の新田原井堰が見えてきます。



往時が偲ばれる、天瀬駅のきれいに修復された駅舎とプラットフォーム。駅舎のベンチでちょっと休憩していくのもいいかもしれません。



水もしたたるいいトンネル、路面が濡れていますが、道幅も狭くなります、気をつけましょう。



吉井川に沿って大きくカーブしたサイクリング道は備前矢田駅に到着します。



木々に囲まれた苦木駅。



看板の設置できないところでは、この路面表示が道案内です。



ローマン街道は吉井川沿いに上流へ向かい、周匝（すさい）橋で一旦東へ迂回してから再度吉井川の堤防に戻ってきます。



ローマン街道もここで終点です。



吉が原駅全景。



窓口でお金を差し出せば本当に切符を売ってもらえそうです。



今にも発車のベルが鳴って動き出しそうです。

それもそのはず、「片上鉄道保存会」によって動態保存され、毎月第1日曜日には展示運転が行われ、実際に乗車できます。

無料駐車場

- ・サイクリングターミナル
- ・和気交通公園
- ・鶴飼谷温泉
- ・柵原ふれあい鉱山公園

見どころ

- ・柵原ふれあい鉱山公園
- ・鉱山資料館



